

2013.12.17

第8回 日本胸部外科女性医師の会
(8th meeting of Women in Thoracic Surgery in Japan)

—活動報告書（第一版）—

代表世話人

齋藤 綾（東京大学）

世話人

富澤 康子（東京女子医科大学）

林田 恭子（舞鶴共済病院）

はじめに

2006年に第1回日本胸部外科女性医師の会を開催して以来、今年で8年目を迎えることが出来ました。社会人として進出する女性に注目が集まり期待される中で胸部外科を含む医療領域における女性医師の役割も注目されるようになりました。地位の向上や就労状況の改善に関する関心も高まり多くの集会や学会の場で女性外科医師のあり方や未来について議論される機会が増えました。現時点では胸部外科領域における女性医師の絶対数は少なく職場環境作りや工夫に関する具体的な試み・経験については限りがあるように思われます。他領域での状況・試み・成功例モデルについて識ことは我々にとってより良い職場環境作りを実現する上で貴重な情報源になると考えられます。

今年も日本胸部外科学会および日本医師会の共催のもとで、第66回日本胸部外科学会定期学術集会に併設し第8回集会を開催することができました。今回の集会では、青森県立中央病院を拠点とした神経内科領域における学生・若手医師の教育および職場環境改善に関する幅広くかつ具体的な試みについてご講演を頂くことができましたので要旨のご紹介と共に会の内容について御報告いたします。

第8回日本胸部外科女性医師の会

開催のご案内

拝啓 金風の候、ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

皆様方のご支援ご協力を賜り、「日本胸部外科女性医師の会」は第66回日本胸部外科学会定期学術集会(会長:近藤 丘先生)の期間中に開催(朝食会)いたします。

性別・職種を問わず、歓迎いたします。ぜひ皆様、ご参加ください。世話人一同心よりお待ち申し上げます。

敬具

日時:2013年10月18日(金) AM7:30~9:00 (AM7:00 開場)

会場:ウェスティンホテル仙台 25F/雪・花

参加費:1,000円

講演題目:医師の働きやすい環境づくり-私たちの試み-

講師:富山誠彦先生

(青森県立中央病院神経内科・脳卒中ケアユニット部長)

【主催】日本胸部外科女性医師の会

【共催】日本胸部外科学会

日本医師会

代表世話人:齋藤 綾(東京大学心臓外科)
世話人 : 富澤 康子(東京女子医科大学)
: 林田 恭子(舞鶴共済病院)
事務局 : 東京大学心臓外科医局内
〒113-8655 文京区本郷7-3-1
TEL : 03-3815-5411 (ext. 3758f)
E-mail : wtsjapan-acm@umin.ac.jp

(デザイン:林田 恭子)

第8回日本胸部外科女性医師の会 (開催概要)

日時： 10月18日(金) 7:30~9:00

会場： ウェスティン仙台 25階/雪・花

講師： 富山誠彦先生

(青森県立中央病院神経内科・脳卒中ケアユニット部長)

講演タイトル: 医師の働きやすい環境づくりー私たちの試みー

参加者： (アイウエオ順、敬称省略)

天野 純	信州大学	心臓血管外科
浦中康子	横浜市立市民病院	心臓血管外科
近藤 丘*	東北大学	呼吸器外科
齋藤 綾	東京大学	心臓外科
田代 忠	福岡大学	心臓外科
戸口佳代	東京医科大学	心臓外科
富澤康子	東京女子医科大学	心臓外科
長崎裕希	エドワーズライフサイエンス(株)	
林田恭子	舞鶴共済病院	心臓外科
松本卓子	済生会栗橋病院	呼吸器外科
本村 昇	東京大学	心臓外科
八木葉子	八戸赤十字病院	心臓外科
*第66回日本胸部外科学会定期学術集会 大会長		

集会概要：

2013年10月18日、秋晴れのさわやかな早朝にウエスティン仙台 25階の景色に恵まれた会場にて集会が開催されました。

青森県下にてユニークな戦略をもって神経内科ユニットの発展にご尽力されている富山誠彦先生をお招きし、約30分に渡るご講演を頂きました。

—以下講演内容要旨—

講演題目：「医師が働きやすい環境づくりー私たちの試みー」

要旨：青森県では県下に神経内科医が総数30人と需要には満たない状況で、十分な診療を行う上では十分な医師を確保することが不可欠であるこの逼迫した状況を改善するために一般病院では様々な取り組みが行われている。今回は青森県立病院で行われている試みについてご紹介いただいた。まず最初に、参考例として碧南市民病院（愛知県碧南市）での試みを紹介した上で青森での具体的な試みについてご紹介いただいた。

富山先生の病院では、現場での意見をなるべく正確に把握するため（直訴の場！？）に定期的な目標面接（飲食の機会など）が設けられている。そこで得られた意見などを参考にしつつ、医師確保の為に重要な対外的交渉、例えば青森県との交渉、保育園の開園・閉園時間に関する交渉など医師が安心して勤務できる体制作りおよび権利を勝ち取ることが行われ結果を残しつつある。現在青森県立病院神経内科には常勤10人（内女性2人）、非常勤2人（女性1人）にまで増員することに成功した。この根底にはいくつかの目標・理念を具体的に提示したことが功を奏したと考えられる。例えば、神経内科医療の活性化の為に以下のような理念を公表した；①医員の増員、②脳卒中診断体制の充実、③神経難体制の充実、④認知症診断体制の充実、⑤臨床研究もできる医師の育成、⑥外来診療の専門化、⑦院外地域診療支援の拡充、である。また、医師確保と就労環境の整備については、男女関係無く働きやすい環境を目指すことが総括的な労働環境整備につながるとの理念に基づく。まず、医員の増員に対する試みの一つとして医学生指導の充実を図っている。春・夏休みの一定期間、臨床実習性を受け入れ初期・後期研修の獲得に努めている。その中で女性の医学部生が描く将来像について意見を聴く機会があるが、その多くの意見は以下のとおりである；①医師として専門医となること、②研究・博士号の取得、③結婚・出産、④できれば留学もしたい、等。但し、現実とのギャップが存在することは否めないのが現状であり、その現実を如何に縮めるか、または縮めうるかの見極めが双方の課題である。就労環境の整備については、富山先生の部局ではグループ制をとりグループ回診や毎日カンファレンスを行うことで仕事の効率化を図っている。週末は待機性とし主治医制の際に伴う各人の負担をグループ性導入により軽減することを目標としている。また仕事の再分配としてかかりつけ医との症例の共有または日常診療の依頼などで、中核病院としての仕事に専念できるよう効率化を図っている。女性医師で家庭への時間配分を考慮するケースで

は義務として週末日中の待機当番を割り当て、当直はその他の医員でカバーする体制をとる。当直料については事務方との交渉で当直量の増額に成功し、医員間でも大きなわだかまりなく行われている。また、出産・育児による休職は研究・留学による休職と等価としより公平な扱いをとる意識をしている。基本的には男性・女性医師共に機会は平等とし、研究・留学の斡旋も可能な限り行っている。尚、留学についてはある一定の勤務期間を経た青森県職員への優遇措置として国内外問わず1年間の有給が保障されていることを紹介された。研究活動については弘前大学とタイアップし科研費や治験参加に積極的に取り組み学会参加の推奨、論文執筆の励行など若手医師の獲得への努力を継続している。上記のような事業拡大は、神経内科の病院経営への貢献を目に見える形、即ち収入増額への貢献という形で結果を積み重ね実現できるに至ったと考えられる。また、青森県医療行政への介入・貢献しては、医師からの視点でないと気がつかない事（例えば脳卒中連携パスの拡充、青森県神経難病ネットワークの運営、など）を事業として拡大することができ、事務方からも評価されるに及んだ。

以上、医療を充実する上での一般病院での試みについて詳細に渡るご紹介を頂いた。その中で女性医師の関わり方としては、平等に労働を負担し平等に機会を受けることが望まれる一面について再認識するご講演内容であった。また、医師が働きやすい環境を整備することは、医師の人生設計の多様化の受け皿を拓げることに繋がることを期待できると考えられた。

質疑応答

富澤康子先生より：学童保育などの補助体制は病院にあるか？

→院内には無く、幼稚園が放課後の預かりなどを請け負っている

浦中康子先生より：妊娠・出産は留学での不在とほぼ同等に扱われているが、留学は時期を計画できるが前者では突然知らされることが多い。そのような場合の対処方法は？

→出産希望のある女性医師に対しては、予め周囲への負担が増えることを認識するようしっかりと伝え、逆の場合は負担を請け負ってもらうことを確認している。

田代 忠先生より：少人数で構成される医局として女性医師への特別な配慮はあるか？

→特になし

医局員が増員した場合の効果はどのように実証しているか？

→売り上げなどの数値で提示している

近藤 丘先生より：理念や目標の設定など、今回の講演でお聞きした試みとして素晴らしい。今後大学との関連がより一層深まることを期待する。

(文責：齋藤 綾)

おわりに

この度の集会では、胸部外科とは異なる分野での職場環境改善に関する試みについて数々の情報が得られたのではないかと思います。この職場環境改善の問題は最終的には女性医師のみの問題ではなく職場の同僚が上手に共存し工夫を重ねることによって初めて解決できる難しい問題であると思われます。今回の集会では臨床現場で頑張りを続ける女性医師のみならず大学講座や部局を運営なさる立場の先生方にも多くご参加いただきました。今後の職場環境・医師待遇・若手医師や医学部生の教育を一連のシステムに組み込めるような職場運営に繋げる上で今回の集会が情報源となりますよう祈る次第であります。

胸部外科領域においても他の分野と同様に女性医師の割合が今後大きくなることが予想されます。これからも、WTSでは様々なゲストを迎え様々な話題を取り上げ勉強会・講演聴講・ディスカッションの場を設定し多くの方がネットワークを拓げる機会として利用していただけますよう、世話人一同邁進する所存であります。

本会の開催にあたり、近藤 丘先生、岡田克典先生、星川 康先生、日本胸部外科学会事務局の皆様、参加者の皆様、株式会社コングレの方々をはじめご協力いただきました多くの方々へ末筆ながら心よりお礼を申し上げます。

2013年12月

代表世話人 齋藤 綾

会場風景

